

簡易被覆によるウルの早出し継続出荷技術

県北地域の特産物であるウルイ(通称「里ウルイ」)を無加温パイプハウスに植栽し、12月上中旬以降、被覆方法を組み合わせることで保温することによって露地栽培より2ヶ月早い3月上旬から継続出荷できる。



軟白しないより自然萌芽に近い荷姿

毎年の株養成や株掘り上げ、温床づくり等重労働を必要としない、より省力で簡易な栽培によって生産できる。

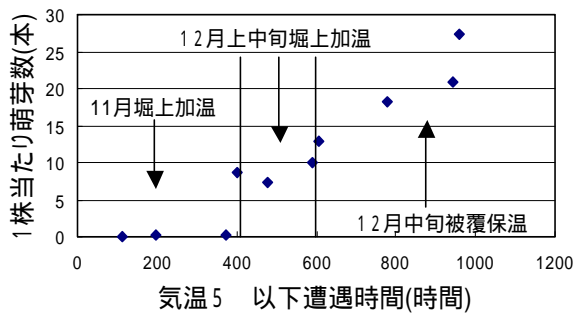


図1 ウルの萌芽と低温要求量

ウルの萌芽には5℃以下の低温に400～600時間以上遭遇させる必要がある(図1)。

岩手県北地域におけるウルの被覆(保温)開始時期は、内陸部では12月上旬以降、沿岸部では12月中旬以降である(表1)。

(注1)供試データ:旧高冷地開発センターでの促成栽培(H2・3)、県北農業研究所での半促成栽培(H13・14)
(注2)株養成年数:H3-3年、H2・H14-2年、H13-1年
(注3)気温5℃以下遭遇時間:10月1日以降被覆開始日迄

表1 県北地域における被覆開始時期

年度	久慈市	軽米町	一戸町奥中山
H12	12/1～12/12	11/24～12/4	11/20～11/30
H13	12/3～12/12	11/26～12/5	11/19～12/1
H14	11/28～12/10	11/18～11/29	11/14～11/23

(注)10月1日以降5℃以下の低温遭遇時間を400～600時

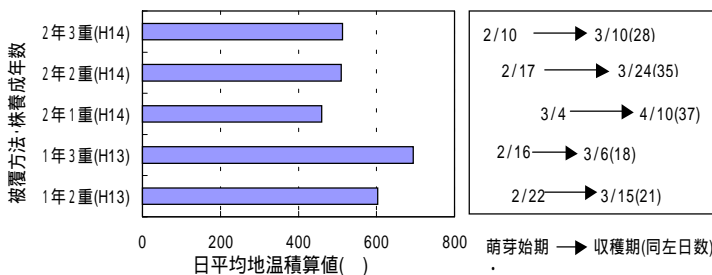


図2 ウルの萌芽始期までの日平均地温積算値と収穫期及び収量

(注1)被覆開始:H13・H14とも12月18日
(注2)被覆資材:ハウス・内張-農ビ0.15mm、トンネル-農ビ0.075mm
(注3)日平均地温積算値:毎時測定地温の平均値の積算
(注4)収穫期の():H15年3月10日ハウス一部破損し、その後低温気味の管理となり収穫期はやや遅延。
(注5)露地栽培の萌芽始期と収穫期:春植付1年 H13-4/15 5/11、H14-4/20 5/10

多重被覆で保温効果が高いほど萌芽は早く、12月中旬被覆開始による3重被覆では2月中旬、2重被覆では2月下旬、1重被覆では3月上旬に萌芽する(図2)。

また、この被覆方法を組み合わせることにより慣行露地栽培より2ヶ月早い3月上旬から連続出荷ができる(図2)。

なお、萌芽始期は被覆後の日平均地温積算値500～600℃の確保が目安となる(図2)。